

『第1回 わくわくShow time』

校長 渡部 透

今年の秋は穏やかな日が多く、赤や黄に色づいた葉を長く楽しむことができました。11月後半になっても日中の気温は高く、雪が降る気配はなかったのですが、12月に入り冬は確実にやってきてしまいました。今シーズンは、あまり多くの雪が降らなければいいのですが・・・。

令和4年は残すところ1か月を切りました。今年も新型コロナウイルス感染症に悩まされた1年でした。感染の拡大防止のため学部閉鎖や学年閉鎖などの対応を数回取りましたが、校内で感染が大きく拡がったり、子どもたちや教職員で重症に陥る人がいなかったりしたことは幸いでした。

さて、12月2日金曜日に、オンラインで県内の特別支援学校（秋田大学教育文化学部附属特別支援学校は学校行事により残念ながら録画した映像での参加でした。）がつながり、表現活動を発表したり、鑑賞したりする『わくわくShow time』が実施されました。このコロナ禍もあって、ICT機器の整備が一気に進み、オンラインでの交流活動が行われるようになったのですが、オンラインで実施する初めての取組に、様々な不安がありました。当日は比内支援学校からの生演奏の音声がうまく拾えなかった残念な場面もありましたが、発表校（能代支援学校、ゆり支援学校、大曲支援学校、稲川支援学校、比内支援学校）からの特色ある取組を全県の特別支援学校が楽しむことができました。学校の伝統として取り組まれているミュージカル、先輩から受け継いできた太鼓演奏や演舞、地域の伝統芸能等、あまり見る機会がなかった各校の表現活動を見ることができました。また、交流活動として行った『*ツバメ』のダンスでも全県の特別支援学校が一つにつながりました。

オンラインでつながる表現活動の発表の場について、今年度の取組から様々な反省が出され、多くの課題が見えてくるものと思います。同時にオンラインでつながる表現活動に大きな可能性も見えてきました。幼児児童生徒の豊かな情操や自己表現力を育み、芸術・文化活動の充実に向けて、『わくわくShow time』を盛り上げていきたいと思えます。

最後になりましたが、『第1回わくわくShow time』のオープニングファンファーレ「ワンダフル・ヒルズ」は秋田県立秋田南高等学校吹奏楽部の皆さんに演奏していただきました。ご協力ありがとうございました。

* ツバメ : 詞、曲、編 Ayase